

実践のまとめ（第5学年 外国語科）

授業公開日 令和7年11月5日（水）第5校時

指導者 長岡市立宮内小学校

教諭 尾形 瑞希

1 研究テーマ

相手や場面に応じて、思考力を働かせながらコミュニケーションを楽しもうとする児童の育成について

2 研究テーマについて

(1) テーマ設定の意図

学習指導要領では、「外国語における見方・考え方を働かせ、言語活動を通してコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成すること」が目標として示されている。さらに、3観点に関わる目標の中では、「外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う」とある。また、話すこと [やり取り] については、「自分や相手の身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができるようにする」とされている。この“その場で”という点においては、「相手とのやり取りの際、それまでの学習や経験で蓄積した英語での話す力・聞く力を駆使して、自分の力で質問したり、答えたりすること」を指している。

山田（2018）によると、外国語における思考力・判断力・表現力を身に付けた姿は、どうすれば相手に自分の思いがより伝わるか、相手の思いをより理解できるかを思考し、もっている知識や技能を、場面にあわせて活用している姿である。つまり、伝えたい内容とその内容を伝えるための外国語表現の両者を同時に考えながら話すことが重要である。

昨年度までの実践を振り返ってみると、その単元で学習した表現を主に使用する [やりとり] の中で、一問一答形式にならないように、レスポンスを大事にしたコミュニケーションを促してきた。主に使用するレスポンスの表現は、児童とともに既習單元の中から探した。多くの児童がインタビュー形式のやりとりの中で、“That’s great!” や “Me too.”、“Oh really?” など、相手の発話に対して反応を示す姿が見られた。一方で、相手の発話を繰り返したり、追加質問したりしながらやり取りすることや、相手の反応・表情などから理解を確かめながら話すことをすることを意識させるような授業づくりができていなかった。児童が今までの経験や蓄積した外国語の力を駆使して、外国語でのコミュニケーションを楽しめるようになってほしいという願いから本研究のテーマを設定した。

(2) 研究テーマに迫るために

① リスニングや音読を中心としたインプットの活動を設定する

阿野（2025）は、「英語を知識として理解しているだけで、技能として身につけていない。単語や文法の知識のままで終わらせるのではなく、活用できる技能にしていく必要がある。」と述べている。そのためには、①インプット、②インテイク、③アウトプットの手順で行うことが有効であるとしている。そこで、カードを使ったミニゲームで音、音声・意味・使い方の3つを体験的に理解させるようにしていく。また、言語活動の前の練習活動では、最低限の会話のスキプトを書いたカードを用いて型として英語を自分の中に取り込めるようにする。その後、自分の本当の気持ちや考えを伝える言語活動を設定していく。

② スモールトークで既習表現を想起させる

やり取りの中で既習事項の活用につなげていくために、授業の最初にスモールトークを行う。その際に、トピックに対して自分たちの思いや考えを自由に話させるような活動を設定する。その後、学

級全体で、何人かと同じやり取りをしている場面で反応の仕方を示し、よりよいコミュニケーションの取り方について児童に気づきを促すようにしていく。さらに、言語活動を繰り返す行方の中で、適切なタイミングで中間指導を行い、児童が活用できる英語表現を増やしていく。

③ 話すことと聞くことのCan-do リストを設定し児童と共有する

英語に限らず、コミュニケーションを楽しむためには、話す側と聞く側の両方が意識してやり取りをする必要がある。学習指導要領の外国語科の目標には、「他者に配慮しながら」とある。これは、相手の理解を確かめながら話したり、相手が言ったことを共感的に受け止める言葉を返しながらかいたりすることである。意味のあるやり取りになるように、児童が“伝わった・分かった”と実感できるコミュニケーションを実現させるために、明確な目標を立て、Can-do リストを活用し、何度も目標に立ち返りながら学習を進めていく。

(3) 研究テーマに関わる評価

① 児童の振り返りの記述から変容を見取る

設定したCan-do リストをもとに、適宜振り返りを行う。友達の英語を聞いて話す内容を変えたり、付け加えたりするなど、工夫した点や変化したところを記述から見取る。

② やり取りをしている場面を記録し、単元のはじめと終わりで比較する

練習活動や言語活動を繰り返す前と後の比較をするために、ICT 機器を活用して、英語でやり取りをしている活動の様子を撮影した動画を提出させる。単元のはじめと終わりで聞き手を意識した話し方や資料の提示の仕方、使用している英語表現などについて見取る。

3 単元と指導計画

(1) 単元名

Unit5 My hero is my brother. (Here We Go!5 光村図書)

(2) 単元の目標

自分の興味・関心を伝えるために友達に伝えるために、自分にとってのMy hero について紹介することができる。

(3) 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと 「やり取り」	<ul style="list-style-type: none"> ・Who is this?やHe/She is …などの表現や関連語句を理解している。(知識) ・あこがれの人について職業や性格、できることなどを話す技能を身に付けている。(技能) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の興味・関心を伝えるために、あこがれの人の職業や性格などについて、簡単な語句や基本的な表現を使って話している。 ・相手の理解を確かめながら、自分の考えが伝わるように工夫して話している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の興味・関心を伝えるために、あこがれの人の職業や性格、できることなどについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて話そうとしている。 ・相手の理解を確かめながら、自分の考えが伝わるように工夫して話そうとしている。
聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・Who is this?やHe/She is …などの表現や関連語句を理解している。(知識) ・あこがれの人について職業や性格、できることなどについて聞き取る技能を身に付けている。(技能) 	<ul style="list-style-type: none"> ・あこがれの人についての発表から、職業や性格、できることなどについて聞き取っている。 ・聞き取った内容を受けて、反応をしたり追加質問をしたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あこがれの人についての発表から、職業や性格、できることなどについて聞き取ろうとしている。 ・聞き取った内容を受けて、反応をしたり追加質問をしたりしようとしている。

書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・Who is this?やHe/She is …などの表現や関連語句を理解している。(知識) ・あこがれの人について職業や性格、できることなどを4線上に書く技能を身に付けている。(技能) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の興味・関心を伝えるために、あこがれの人の職業や性格などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の興味・関心を伝えるために、あこがれの人の職業や性格などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて書こうとしている。
------	---	--	---

(4) 単元の指導計画と評価計画

次 (時数)	学習内容	学習活動	主な評価基準と方法
1	<ul style="list-style-type: none"> ・本単元で目指すゴールの姿を示し、自分にとってのMy hero について考える。 ・職業を表す英語表現や伝える言い方を知る。 ・人の性格を表す英語表現について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・“Hero” とはどんな人物なのかイメージを持たせ、自分にとってのMy hero を調べる。 ・職業や性格を表す英語表現を知り、有名人について紹介する文を練習する。 ・紹介したい人を決め、習った表現を使って紹介する。(撮影①) 	<p>本次では記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況や記録に残さない活動においても、教師が児童の学習状況を確認する。</p>
2 (本時 5/7時間 目)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分にとってのMy hero について、友達と紹介し合う。 ・他者に配慮した話し方や聞き方、自分のことをより分かってもらうための追加情報について考える。 ・グループごとで発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・選んだ人物の職業や性格とできることを紹介し合い、話したことをまとめておく。 ・聞き手より伝わるような工夫について考え、発表を改善する。 ・グループごとに、自分にとってのMy hero について発表し合い、付け足した表現を書く。(撮影②) 	<ul style="list-style-type: none"> ・知・技/思・判・表 /主 他者に配慮しながら簡単な語句や表現を用いて、自分の考えや気持ちを伝え合っている。(動画) ・思・判・表 他者に配慮しながら簡単な語句や表現を用いて、自分の考えや気持ちを伝え合っている。(動画)
3	<ul style="list-style-type: none"> ・自分にとってのMy hero について、クラスで発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分にとってのMy hero について、クラスで発表する。また、発表したことを書きだしてポスターをつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知・技/思・判・表/主 他者に配慮しながら簡単な語句や表現を用いて、自分の考えや気持ちを伝え合っている。(発表) ・知・技 習った表現を使って、自分が紹介した人物についてポスターを書くことができる。

4 単元(題材)と児童

(1) 単元について

Unit 4では、can を使って「できること」や「できないこと」を表す英語表現を学んできた。本単元では、これまで習ってきた表現を織り交ぜながら、自分にとってのMy hero や自分の思いについて、他者に配慮しながら話したり聞いたりする力を育成する。発表の型となりうるようなモデル文の音読活動や既習事項を想起させるためにスモールトークを隔回で行い、基本的な英語表現に十分に慣れ親

しませ、自分の考えや思いを伝え合う中で、相手にとって新たな自分を紹介できるようにする。

(2) 児童の実態

外国語に好感をもっている児童が多く、チャンツや基本的な表現の練習を意欲的に取り組む児童が多い。また、男女ともに仲が良く、ペア活動やグループ活動では教え合いながら協力して学んでいる姿がよく見られる。

Unit 1・2では、クラスの友達とより仲良くなるために、誕生日や自分の好きなことなどを伝え合う活動を行った。その際に、児童は英語でのコミュニケーションについて考え、一問一答形式ではなく、話し方を工夫したりレスポンスなどを意識したりするとコミュニケーションが円滑になると実感した。また振り返りでは、多くの児童が、「もっと英語を話してみたい」と記述するなど、コミュニケーションを図る意欲を高めていた。一方で、英語で自分の思いや考えを表現することに苦手意識をもっている児童もいる。それぞれの活動の難易度を段階的に上げていき、自分でできたと感じられるように授業をつくっていきたい。

5 本時の展開 (本時 5/7 時間)

(1) ねらい

・友達に自分のことをもっと知ってもらうために、今までに習った表現を使って自分にとっての Hero をより詳しく紹介することができる。(思考・判断・表現)

(2) 展開の構想

本時は、スマールトークを行い、児童に既習事項を想起させるようにする。前時まで完成させた紹介文を友達と紹介し合い、聞き手が相手のことをもっと知りたいと思い、“Please tell me more.” と発話した、どのような情報を付け加えることができるのかを考えさせる。本単元のねらいである「友達に自分をもっと知ってもらうために」に立ち返り、既習事項を活用できるようにしていく。さらにペアでの発表練習や必要に応じて中間指導を行う。相手の発話を聞いて「That’s nice. Wow! Great.」などのレスポンスを返したり、聞き手の様子や発話から追加情報や関連質問などを入れたりして、工夫して話そうと意識できるようにする。

(3) 展開

時間 (分)	学習活動	◎教師の働きかけ ・予想される児童の反応	□評価 ○支援 ◇留意点
導入 (15分)	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶 ・スマールトーク ・既習表現の復習 	<ul style="list-style-type: none"> ◎挨拶、曜日、日付、天気を確認する。 ◎既習事項を使って、スマールトークを行う。 ◎ICTを活用して、既習表現を復習し、前時までにつくった紹介文をペアで発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○机間指導を行い、ヒントを与える。 ◇性格を表すピクチャーカードを黒板に掲示し、意識づける。
展開 (22分)	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル提示① 2つのモデル動画 A, B を見て、他者に配慮することについて考える。 ・教師のモデル提示② 不完全な教師の発表を見て、使えそうな英語表現や付け足せる情報を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎話し方や見せ方の良いモデルと悪いモデルの2つの動画を見せ、どちらのどこがいいのか考えさせる。 ・アイコンタクトがない。 ・スマイルがよかった。 ◎どんなことを言えば自分のことを知ってもらえるのか、習った英語表現で言えそうなことを考える。 ・“I like～.” で好きなものを見てみよう。 ・“make” で作ったものが言えるんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇同様に聞き手としてのポイントを簡単に押さえる ◇Can-do リストのカードをテレビにうつしておく。 ◇出てきた意見をもとに、教師の発表原稿に情報を付け足す内容をみんなで考える。

	<ul style="list-style-type: none"> ・付け足せそうな内容を考え、ペアで発表し必要に応じて中間指導をおこなう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・誕生日とかいうと詳しく紹介できるんじゃないかな。 ◎ペア発表後、中間指導を行ったり、工夫をしているペアを取り上げたりする。 ・伝わってなさそうな時にジェスチャーをつけて話せたのが良かった。 ・“OK？”って聞いている人がいて、真似できそうだった。 ・聞いている人があいづちをしながら聞いてくれてうれしかった。 	<p>○英語の表現で困っていることを取り上げ、クラス全体で考える。</p> <p>思・判・表</p> <p>簡単な語句や表現を用いて、自分をもっと知ってもらうために英語で伝え合おうとしている。【行動観察・ワークシート】</p>
まとめ (8分)	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートを記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎振り返りを書かせ、本時で学んだことや前時までと比べてできるようになったこと、次回頑張りたいことなどをまとめる。 ・前よりも英語をたくさん使って話せるようになった。 ・” Please tell me more.” と言われた後に、“I like～.” とかを使って言えたので良かった。 	<p>主</p> <p>本時の活動を振り返り、今後の発表に活かそうとしている。【振り返り】</p>

・本時で予想される会話例

<p>Look at this. This is Takahata Isao. He is an anime creator. He can't draw pictures well. But he can make story.</p> <p><u>He can make story.</u> <u>I like Pandakopanda. Very cute.</u> Thank you.</p>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>ここまでは前時までには作り終えて、話す練習をしている。</p> </div>
		<p>That's nice. Please tell me more.</p> <p>Great! Thank you.</p>

聞き手の“Please tell me more.”を受けて、下線部のような表現が付け足されるようにする。

(4) 評価

- ・今まで習った表現を使って、自分のことをもっと知ってもらうための情報を付け足そうとしている。【行動観察・ワークシート】
- ・学んだことやペアトークを振り返り、今後の発表に活かそうとしている。【振り返り】

6 実践を振り返って

(1) 授業の実際

① リスニングや音読を中心としたインプットの活動

本単元で学習する基本的な英語表現を確実に身に付けさせるために、第1次から基本的な紹介文の型を決め、様々な活動を行った。紹介する人物を児童に身近なキャラクターや学校の先生方、日本を代表するような有名人やアスリートなどに変えながら、形として覚えられるように繰り返し行った。

その結果、黒板に板書した英文を見ながら話す時間が徐々に少なくなり、ペアの相手を見ながら話そうとしたり、カードを指し示しながら話したりしながら、聞いている相手を意識したコミュニケーションが取れるようになった。内容を変えながら活動を繰り返し行うことで、児童の英語表現に対する慣れや安心感をもたせることができたと考えられる。

紹介する人物 の 写真	紹介する人物の名前
	職業

図1 有名人紹介で使用したカード

② スモールトークの活用とレスポンス表現の定着

週に1回はスモールトークの時間を設定するようにした。相手の好きなことやできること等、既習事項を活用することができるような話題を設定し、スモールトークを継続的に行った。また、相手の返答を受け、さらに情報を引き出すために、“Please tell me more.” を使えるように指導した。この表現は前単元の友達紹介から繰り返し使用してきたため、児童の中にもっと相手のことを聞きたいときに使う言葉として定着していた。その他にも、“That’s nice/great.” や “Oh I see.” などのレスポンスの英語表現を使っている様子も多く見られた。本時の活動では相手が自分の知らない人物を紹介したときに、どんな人物なのかに興味・関心をもったり、友達の知らなかった一面を知ったりすることで自然とレスポンスの英語表現を使っていた。このように実際に使う場面を設定し、自然な状況で繰り返し使用することで、状況に合わせてレスポンスの表現を使い分けるよう意識させることができたと考えられる。

③ モデル文の提示の工夫

本時の【モデル提示①】では、どんな話し方をしたらより伝わりやすいのかを、AとBの2つのモデル文を提示して考えさせた。このモデル文の提示は、教師が実際に話しているところを動画に撮り、授業の展開場面の最初に児童に見せた。児童は教師のモデル動画を繰り返し視聴することが可能になり、実際に“A, one more!”と発言した児童もいた。また本時の【モデル提示②】では不完全な教師の発表をその場で聞き、どんな英語を使って内容を付け足していたのかを考えさせた。児童は教師の発表を聞いて、スモールトークで使用した英語表現や今までに学習した内容を聞き取り、発表に付け足せる英語表現を理解することができた。このように、児童に何をどのように考えさせるかを明らかにするために、モデル提示の方法を工夫することは児童の思考を深める上で有効であったと考えられる。

(2) 研究テーマに関わる評価

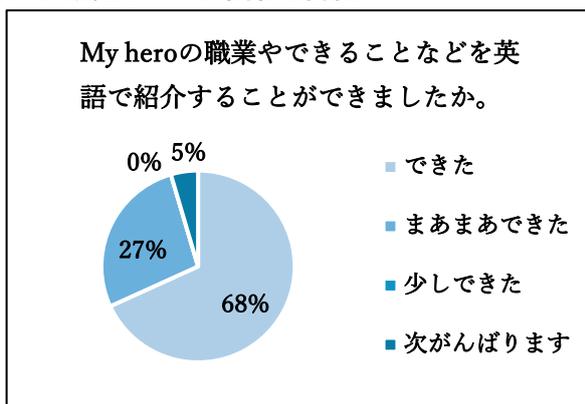


図2 児童アンケート①の結果

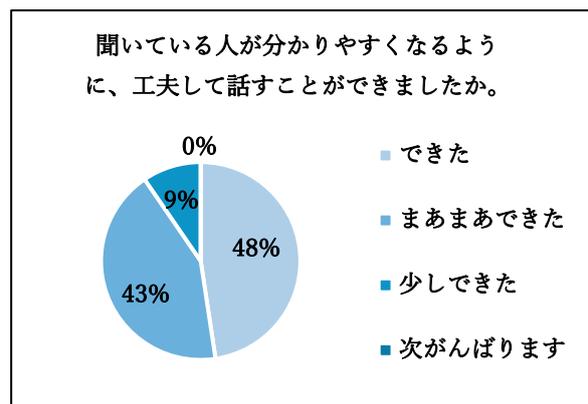


図3 児童アンケート②の結果

児童1	前回よりもしっかりと英語で話せたし <u>分かりやすく話せた</u> と思います。
児童2	しっかり相手のことを見てアイコンタクトすることができたし、ジェスチャーもすることができました。
児童3	今日思ったことは <u>ジェスチャーや好きなものを追加すると分かりやすい</u> ということが分かりました。

児童4	最初はしっかりと話せてなかったけど、 <u>どんどん練習していくとうまくなって、相手に本当にこの人が好きなのが伝わった</u> と思いました。
児童5	スラスラ話せてよかったです。紙を見ないで話せました。
児童6	今日はもっとできたのではないかと強く思いました。その人の職業など日本語で言っていたけど、英語でもできると分かったからです。

表1 授業で行った振り返り（記述部分、一部抜粋）

図2、図3の結果から、児童がMy heroを相手に分かりやすく発表することができるようになったことや、スモールトークの中でレスポンスの英語表現を十分に活用させてきたことが、聞いている相手を意識して話そうとする姿につながったと考えられる。

表1の児童の記述からは、相手に分かりやすく話すためには、簡単な英語で話すことや話し方を工夫すると伝わりやすいと感じていることが分かる。特に児童3・4の記述から、話し方を工夫したり“Please tell me more.”と言われた後にさらに情報を追加したりすると、相手によりMy heroのことや自分の思いが伝わったと児童が実感することができていたと言える。実際の授業の場面でも、発表の回数を重ねるごとに楽しそうに話している姿が見られたり、参観している先生方に発表している姿も見られたりした。また友達の発表を聞いて、もっと英語で話せそうだと次回への意欲につながる記述も見られた。次の時間にALTが来ることを伝えると、意欲的な反応が見られた。

（3）今後の課題

① 活動の目的や目標、伝える相手の設定

前単元から本単元にかけて同じ言語材料である“can”を使って表現する学習だったので、連続性を持たせ、レスポンス表現も関連を持たせるように計画した。しかし、児童が最終的に英語を伝える相手を誰にするかも重要であり、児童の学習に向かう態度や意欲に大きく影響する。日本語ではなく英語で伝えたいと思えるような相手の工夫をしていく必要がある。市内のALTだけでなく、学区の中学校や市の国際交流会なども積極的に利用していきたい。また、学校内でも異学年で交流できる活動などを設定していきたい。

② 中間指導の方法や内容

言語活動における中間指導では、教師の見取りや児童の困り感をもとに、内容面や英語表現について指導した。身長の言い方では、児童から“big, tall”などキーワードが出てきたので、既習表現と合わせて“He is big.”と納得させることができた。児童の些細なつまずきやつぶやきを見逃さずに取り上げ、学級全体で考えながら表現力を高めていきたい。また、まだ習っていない表現などは、ジェスチャーなどを活用しながら簡単な英語で表現できるようにしていきたい。

③ クラスルームイングリッシュの充実

現段階で、授業が進むにつれて教師の英語使用量が減ってきてしまっている。児童のリスニング力や表現力を高めるためにも、教師の英語使用量がとても大切であると考え。クラスルームイングリッシュを継続的に使用し、児童が内容を理解したり、聞き慣れたりすることができるようにしていきたい。

<参考・引用文献>

- ・文部科学省.『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編』.開隆堂出版株式会社.2018
- ・山田誠志.『「考えながら話す」小学校英語授業－使いながら身に付ける英語教育の実現』一.株式会社日本標準.2018
- ・阿野幸一.『英語が聞ける！話せる！単語力・文法力が身につく！6ステップ音読』.NHK出版.2025